



西垣明則さん

そんな中、平成19年8月8日の日刊宗谷に「わが家はエコロジー」という大きな写真入り記事が掲載された。

稚内では今、北海道電力と稚内市がNEDO技術開発機構の委託を受けて「大規模電力供給用太陽光発電システム安定化等実証研究」を着々と進めている。

平成19年度末で2000kWの太陽光パネルの設置が完了し、最終的には5000kW超の日本最大の太陽光発電所になる予定だ。

自宅屋上に設置したという太陽光パネルの前で得意げに腕組みをしているたくましい体躯の男性の名前は西垣明則さん。

「あ、会員の西垣さんだ」

西垣さんは稚内新エネルギー研究会設立時からの会員。研究会の催しにはたいいてい出席のご返事を下さるので、お名前はよく存じ上げていた。失礼ながらこれまで顔と名前が一致していなかったが記事のおかげで完璧になった。これはぜひ取材に伺わねば：と思いつつ、ご自宅を訪ねたのは年も改まった二月中旬のことだった。

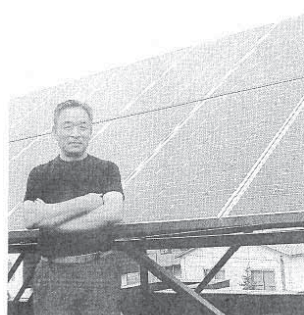


11枚×3列のパネルが並ぶ西垣邸の屋根の上

わが家はエコロジー

環境と節約 一石二鳥

太陽光発電施設を設置



完成した太陽光モジュールと西垣さん

成果に期待西垣さん宅

とは奥さんの千佳子さんの評。

ん57年、あはかねてから環境問題に関心を持ち、家庭での省エネや節水活動に力を入れてきた。さらに西垣さんは家庭用太陽光発電システムを設置し、自家消費電力を削減し、余剰電力は北海道電力に売電する。この取り組みは、環境と節約の両方を同時に実現している。西垣さんは、この取り組みを通じて、環境問題に関心のある人々を巻き込み、社会全体での省エネ活動の推進に貢献したいと考えている。

日刊宗谷 平成19年8月8日の記事

「その社長と話をしたら気が合ってた。うちの屋根でもできるかどうか見てもらったら大丈夫だよ」というのでつけることにしたんだ。」

と、事もなげにおっしゃる。聞けば国産のちよつといい車が見える値段、相当の思い入れがなければできない買い物だ。

「電気は自家消費して、逆に北海道電力に売ってるくらいです。」

昼間の電気は太陽光でまかなえるし、ガスレンジも外してIHに変えてしまったほど。ただ、バッテリーに蓄電する方式では

西垣さんは、三十年間底曳船の機関長を勤め、定年で船をおりて七年になる。自宅の庭の畑に自作の風力発電を取り付けるなど、もともと自然エネルギーには興味を持っていた。十年位前から太陽光発電に関心があり、自分で本を買うなどして独自に研究していたという。船に乗る前、学校を出てすぐ電気関係の会社に就職したそう、そのような経歴が影響しているのかもしれない。

「新エネルギー研究会に入ってから特に興味をもつようになったよね。」

「やってみようとは思っていたけど、こんなに大々的にやるつもりはなかった」

と、西垣さん。きっかけは市内のホームセンターで北見市の会社が開いた展示会を訪れたことだ。



雪の中で回る西垣さん手作りの風車